市外出身学生 たこ高く

つながり実感 魅力を伝える

静岡文化芸術大から参加

「曳馬町三浦組」に加わり、たこ揚げに挑戦する（手前左から）川口璃穏さん、篠崎真実さんと杉山みきさん＝3日午前10時半ごろ、浜松市南区のたこ揚げ会場（浜松総局・中井公一）

浜松市内で浜松まつりが開幕した3日、準備段階から同市中区曳馬の「曳馬町三浦組」に加わってきた市外出身の静岡文化芸術大の学生が、同市南区のたこ揚げ会場で地元住民らと一緒に大だこを揚げた。空高く舞い上がるたこを眺めながら「高く揚がると、こんなにうれしいなんて」と声を弾ませる学生たち。「地域のつながりを強く感じ、楽しむことができた」と、友人にも祭りの魅力を伝えたいと考えている。（浜松総局・佐野由香利）

幼少期から三浦組の一員として参加してきた3年生の篠崎真実さん(20)とともにたこ揚げ会場に姿を見せたのは、2年生で静岡市清水区出身の杉山みきさん(19)と、青森県三沢市出身の川口璃穏さん(19)。篠崎さんが、祭りに興味を持っていた市外出身の2人に声を掛けた。3人は3月下旬から同組の会所に顔を出し、ラッパの練習やたこの糸目付け、事務作業などさまざまな準備を間近で見てきた。本番が近づくにつれて高まる熱気を体感し、祭り当日だけでは分からない裏方作業や苦労も知った。

地域のつながりが色濃い浜松まつりは、地元出身でないと参加しづらい実情もある。若者の参加減少が課題になる中、一方で3人は大学の友人から「祭りに出たいが、その方法が分からない」という声を多く聞いていた。

今後、地元出身でない学生と祭りをつなげるアイデアを浜松まつり組織委統監部などに提案するつもりだ。「準備段階から関わることで当日の楽しさが増す。参加するきっかけづくりができれば」と考える。

浜松市中心部は若者の首都圏などへの転出が続き、祭り文化を継承するため、〝よそ者〟の学生に期待する声も上がる。加藤元一組長(49)は「学生の輪が少しずつ広がり、縁あって浜松に来た学生が祭りに加わる流れができたら」と期待した。

静岡新聞

© 静岡新聞社　無断複製転載を禁じます